

# 選手会活動報告 2019.4.01～2020.3.31

日本スポーツ雪合戦選手会 活動報告と雪合戦に関する動向

4月 選手会役員改選となりましたが、実質の活動期間が1年ということもあり、  
発人メンバーで、もう一期、継続となりました。  
2021年3月31日までの期間となります。

5月 選手会入会メンバー

東北地区 菊池 陵太さん（岩手：べっちよりべっちより）  
佐久間定樹さん（岩手：タイガーセブン・ウル虎セブン）  
西日本地区 藤田 晃弘さん（四国：フルカウンター）

●夏季の大会情報発信

●雪合戦マガジン編集部 全国の雪合戦大会参加チーム数統計情報提供

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
全国一般	843	764	687	645	511
2大会以上の 参加チーム	157	142	152	128	123
レディース	77	68	65	64	51
2大会以上の 参加チーム	32	29	28	24	20
mix	104	118	121	91	108
小学生	186	186	198	195	184

6月 ●第一回 雪合戦プレイヤーミーティング9月開催予告

●規約改定（ホームページにて告知）

チーム代表者のみの登録を 任意で、もう1名追加できる事になりました。

※個人参加

7月 ●道央ビーチ雪合戦 7月 選手会メンバー交流 岩手チーム

8月 ●島根夏の陣 8月17日 全国から選手会メンバーが参加交流

9月 選手会入会メンバー

関東地区 遠山 忠（山梨：室蘭工大 OB チーム）

●「第一回雪合戦プレイヤーミーティング」開催 9月22日（土）

特別ルールによる検証も兼ねて実施、選手による体験者勧誘で6名参加

・夜は懇親会を実施、はだし部埼玉さんによる現地幹事をお願いしました。



9月23日（日）選手会メンバーによるミーティングを川越市内で実施

昭和新山大会の試合運営情報 日本連盟の状況など情報交換し、当面の静観を確認



10月～ ●埼玉で試みた、ルールに関するアンケート実施。

※詳細はこの報告資料と一緒にホームページにも掲載します。

●住友生命健康財団、スポーツ推進助成プログラムへ申請を行いました。

(新規申請 140 件/28 件 2020 年 2 月、申請不採用通知)

内容：雪合戦普及のための冊子制作と全国への普及活動を申請

1月～3月 中止となった大会

西日本雪合戦大会（鳥取） 山形県雪合戦大会（山形）

昭和新山国際雪合戦（北海道）

日本雪合戦選手権大会（群馬）

【新参加メンバー】

鬼の SHOW 大場正洋 さん （宮城）

あすとろうず。 宮本 保 さん （北海道道央）※二人目

北海道 89ers 井上泰男 さん （北海道道央）

事務局より

○選手会では、フェイスブックページにより情報伝達や物事を決めていくため、具体的な物事の確認、決定や実施には時間が、かかります。メンバーの参加意識が重要ですので活発な意見をお願いします。

○北海道、東北、関東、中部、西日本と地域でも分けていますが、選手会主体での交流企画なども提案いただいても結構です。選手会主体での大会も可能かと思います。

## 【今年度について】

- (1) 現行の選手会について、メンバー全員から意見を求め、今年度実施可能な目標を立て、実施していきたいと思えます。
- (2) 選手会毎に、各組織への意見など、メンバーの声を取り入れていきます。
- (3) 国際連合（昭和新山国際雪合戦主催）で今年から、加盟連盟以外の地区から参加するチーム・選手に対して、広く実施ルールに関する意見を公募します。選手会を通じても発言の機会として捉えていきたいと思えます。

【補足】昨年同様。／これまでの経緯として選手会のホームページにも記載しています。

●経緯についてはメンバーのフェイスブック、ホームページをさかのぼって確認してください。

※現在、日本雪合戦連盟、世界雪合戦連合と二つの組織が存在します。簡単に言えば両者は分裂して二つになったものです。雪合戦チームはどちらの大会にも参加することが実質可能です。日本連盟については、運営体制を維持するために多額の借入れ返済が問題との情報で、岩手、兵庫と連盟の脱退が続いています。加盟チームという位置づけも、便宜上のことになり、大きな大会への参加費や加盟登録料という徴収がなければ、組織の運営が困難になることは現実的なことです。

本来は 上部組織（連盟・連合）

- － 下部組織（各都道府県連盟）
- － 各連盟加盟チーム ならびに選手

上記の構図が本来のものだと思いますが、雪合戦界の現実的問題は、絶対的な競技人口の少なさや、同じく競技チームとしての括りで存在しているチームが、まだまだ少なく、つまり、まだまだ成熟できていない競技だという事です。

例えば加盟登録料を大会参加費に含んで加盟チームとして扱っている連盟もありますが、大会参加だけで全てのチームや選手の方でそれを意識されているケースも少ないのではないのでしょうか。さらにチーム・選手の意見がボトムアップされていく構造にもなっていない地域が多く、仮に意見出来たとしても、地域組織も大会運営が主であり、分裂している上部組織にも意見が出来ない、改革もできていないのが現実と捉えています。

意見を伝える、情報を共有するための意義が『選手会』設立の目的のひとつであり、チーム有志の皆さんを、ひとつに、つなげるためのものです。